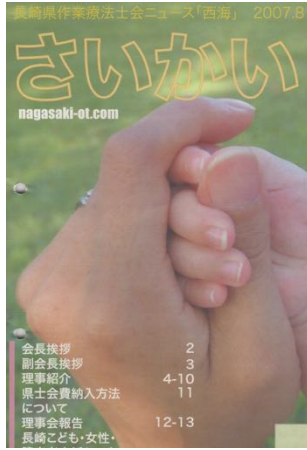
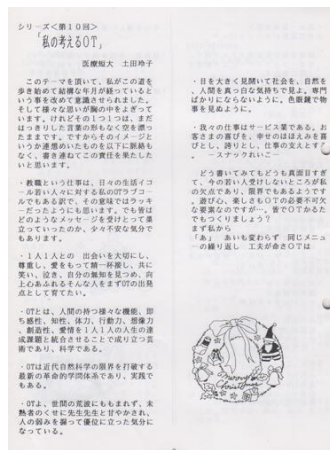




平成3年 6月号
2代目会長 太田先生の巻頭言



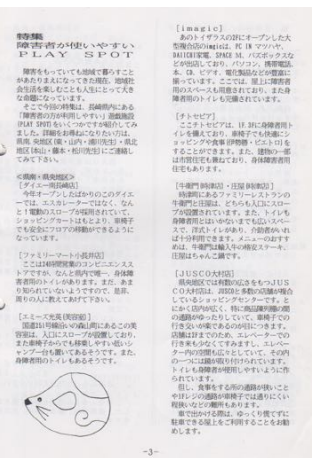
平成19年 83号
西海初のカラー化



平成7年 43号
シリーズ「私の考えるOT」土田先生



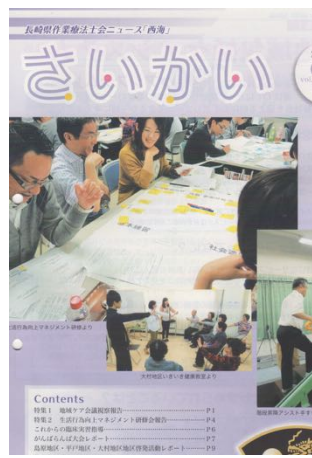
平成25年 95号
壁新聞形式もやってみました。



平成7年 43号
障害者が使いやすいPLAY SPOT



平成14年 70号
学術誌刊行・研修会補助金事業に
ついて



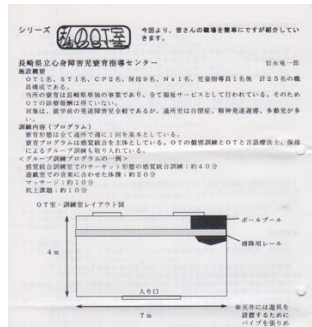
平成26年 97号
生活行為向上マネジメント研修
開催



平成20年 84号
おなじみのロゴマークは全国学会
開催を機に作成されました。
中倉富子氏作。

Contents

さいかい100号記念企画 歴代会長よりメッセージ	P2
当会理事より	P5
お母さんOTへのエール 和仁会病院 田川OT	P7
精神分野トピックス 田川療養所デイケアの紹介	P8
第23回長崎県作業療法学会を終えて	P9
日々は学ぶページ 勉強会紹介	P10
第24回長崎県作業療法学会要項	P11
新人紹介	裏表紙



シリーズ 私のOT室



書籍紹介の増刊もありました。

継続は力なり

地域社会から広く求められる専門職へ

初代会長 山崎 一郎（特別養護老人ホーム 大川荘）

一般社団法人 長崎県作業療法士会ニュース「西海」100号の発行、誠におめでとうございます。心よりお祝い申し上げます。『継続は力なり』と申しますが、1985年の創刊から31年、歴代の県士会役員並びに会員諸氏の労苦は、想像の域を超えた多大なものがあつたに相違ありません。ご尽力に対しまして、あらためて心より感謝申し上げます。

さて、長崎県士会の歩みを振り返りますと、1983年2月に熊本・大分・福岡・佐賀に次ぐ、九州沖縄地区で5番目の県士会として発足したと記憶しています。

老人保健法（現：高齢者の医療の確保に関する法律）が全面施行され、地域リハビリテーションの考え方が制度の下に、ようやく全国展開されるようになった頃でありました。

また、認知症に関わる諸問題が、個々の家庭での対応に止まらず、社会の中で取り上げられるべきこととして、認識され始めた時期でもありました。

当時、全国の有資格者が約1,500名、日本作業療法士協会会員1,022名であり、長崎県作業療法士会は、発足時、僅か20名足らずでした。会議の多くは大村や諫早の県央地域で開き、総会における一票が実に重い時代でございました。

九州地区の作業療法士養成校も、労働福祉事業団九州リハビリテーション大学校（現：九州栄養福祉大学）、国立療養所福岡東病院附属リハビリテーション学院（閉校）、熊本リハビリテーション学院（現：熊本総合医療リハビリテーション学院）の3校で、年間65名の新人作業療法士が輩出されていました。

それから早33年。長崎県作業療法士会も現在では1,022名の会員を有し、県内での作業療法士養成も年間約100名の時代を迎えるに至っています。

たいへん嬉しく思うことは、県士会の皆さんが、非常に熱心に日常の業務や地域活動に取り組まれ、その専門性の追求と情報発信を継続されていることです。

異文化漂う長崎の地は、やはり何か新しいものに果敢

に立ち向かい、新文化として形づくり、広めてゆくというパワーを感じます。

私も福岡県に移りまして12年目を迎えています、ここ20年間で作業療法を取り巻く環境も大きく変化いたしました。介護保険制度がスタートし、作業療法士の職域が拡大したことは言うまでもなく、回復期リハビリテーション病棟の創設、急性期作業療法や内部障害領域での診療報酬上での評価、更に地域包括ケア時代に向けては作業療法士に対する地域からの期待度が非常に高いという実態にあります。

今年3月まで、作業療法士養成教育に従事して参りました。作業療法（士）は、履修するカリキュラムからみて医療専門職そのものです。しかしながら、国家試験受験まで、解剖学・生理学・運動学で苦勞する学生が実に多いということです。地域社会から広く求められる専門職となるためには、その資格取得はほんの入り口に過ぎません。知識や技術のみでなく、作業療法を提供する人として弛みない情熱が社会人として求められます。

お陰様で、一昨年私も三度目の成人式を迎えることができました。現在、自分自身への作業療法という意味も含めて協会自宅会員の立場で、臨床での「作業療法の視点」での学びを続けていこうと思っています。

将来に向けては、作業療法士が時代の多様な変化に対応していけるかどうか、行政からも関連職種からも注視されています。

長崎県作業療法士会の皆さん、県域といった枠を超えて、大いに本誌「さいかい」を媒体とした情報発信をされるよう期待しております。

今回、このような執筆の機会を賜り本当にありがとうございます。皆様方の益々のご多幸とご発展を祈念いたしまして、結びの言葉に代えさせていただきます。

作業療法は人支援の科学

長崎発の共有と実践

先代会長 長尾 哲男（西九州大学）

長崎とのお付き合いは、OT協会がまだ地方においてブロック制をとっていた頃からになります。島原県立眉山の山崎さんが取りまとめ役をやられていた頃です。私は当時大分において九州沖縄地区のブロック代表を務めていて、作業療法を地域ごとに認識してもらう活動の一環として、各県に県士会構築をお願いし始めていました。あまり知られていませんが、長崎は日本では作業療法が早期から導入された地域の一つでしょう。県職員では特例受験の太田さん、当時まだ学校の少なかったころに長崎労災病院は九州リハ大から私の1期後輩の近藤さんが入っています。その後、特養に山崎さんが入りますが特養にOTが入っていたのは当時としては早いほうだったと思います。

実はこれらのOT養成は、米国OTのドロシー・大森氏による国家試験が始まる前の厚生省の講習会から始まります。この講習会で用いられたテキストは九州労災病院の施設の機材写真を使って作られています。九州労災病院は当時すでにカナダから職能療法としてOTを導入していました。その現場で職能療法士として活躍していたのは看護を基盤とした米倉・山口両氏ですが、お二人とも国立大村の看護学校を出た方々でした。日本の作業療法の立ち上げと以後の養成のキーは実に長崎にルーツがあります。

地域リハに目を向けた活動は、兵庫リハの澤村医師の徹底的な切断患者支援などが有名ですが長崎では離島を抱えるという特殊性に対応した国立長崎の浜村医師の活動もよく知られているところです。OTの士会活動としては、OT協会からの助成金・地域の助成金の利用で続けた自助具キャラバン隊活動も当時OTがおかれていた時代からみるとユニークな先駆的活動だったと言えるでしょう。機能訓練的に捉えられていたリハを幅広い生活支援の視点として認識していただいたものと言えます。

地域での研修会活動の経験などを生かしてブリックホールでの長崎学会は雨にたたられたものの無事に開催できました。この学会では、私たち臨床に関わる者の知見はすべて患者・障がい者の方々から預かったものであるという観点から、発表掲示しているポスター内容はカメラでの記録撮りを発表者の意思で可能にしたのも作業療法学会では初めてでした。その後の学会場で写真可のマークが使われているものを見かけますがこのきっかけを作ったのは、自然科学ではなく、人支援の科学の分野において学問の先陣争いでなくすべては患者・障がい者のためにあるという意味を示した長崎のPF姿勢が根付きつつあると言えるのかもしれません。

このような長崎の姿勢を、県内のすべての作業療法士が共有し実践するために、これからの西海誌が足を地につけてますます機能していくことを期待しています。



平成20年 84号
長尾先生が学会長をされた日本作業療法学会。
長尾先生には「西海」で何度も執筆を依頼しては、
快く引き受けてくださいました。（編者）

さらなる実践の発信を

「西海」発の広報活動を振り返って

会長 沖 英一 （和仁会病院）

さいかい100号 おめでとうございます。

私が、長崎県作業療法士会に入会したのが平成5年の4月のことでした。当時の会員数が、80名程度だったことを思っています。その頃の「西海」は、B5判の白黒印刷のもので、県士会の勉強会・研修会の案内や会員相互の情報交換のツールとし発行されていました。職場に作業療法士が一人というところが多く、どの職場に誰が所属し、どのような仕事ぶりなのかを載せてありました。

平成21年には県内の3つの養成校の毎年の卒業生数が、約100名となり急激な会員数の増加の時を迎えました。それまでは、任意団体として活動していましたが、平成22年一般社団法人となり社会的に大きく貢献する団体となりました。

現在の平仮名表記の「さいかい」は、第42回日本作業療法学会（平成20年）を長崎で開催した頃に変更したと記憶しています。（当時の広報部担当者の考えで変更しました）

ここ数年の「さいかい」は、カラー印刷版となり画像や図を取り入れ作業療法士の活動・内容をわかりやすく取り上げた記事が載せてあります。時には、A2用紙で壁新聞形式の広報誌を作成したこともありました。内容は、県内各地での啓発イベントを写真や説明を入れて紹介した様子の特集で載せてあり、所属施設によっては、壁に貼って掲示することで他職種・患者さんも目を通されているようでした。漢字表記の「西海」会員相互の情報交換の役割が大きい機関紙から作業療法を多くの人に認知してもらうための広報の役割を兼ねた「さいかい」へ様変わりしてきました。

九州8県のそれぞれの作業療法士会の広報部で構成される九州広報戦略部は、年に1度顔を合わせて会議を行っています。そこでは、一人でも多くの人へ作業療法の魅力をわかりやすく伝える方法について意見交換がなされます。会議終了後もお酒を飲みながら引き続き熱く意見を述べられています。その結果が現在の広報誌・ホームページへと変化させてきた経緯があります。これは、全ての広報部員の方々のご尽力の賜物です。



平成20年 85号
「やったばい学会宣言」は、沖（現）会長から発信されました。（編者）

地域包括ケアシステムにおける作業療法士の活動の場が、病院・施設はもとより障害を持つと予想される人への予防活動、学校教育現場での活動、その他多くの職域で活動すること・できることを発信することが必要です。今ではインターネット上で作業療法士会のホームページをいつでもどこでも誰でも過去の情報まで閲覧可能となっており情報発信するには、最適な環境です。作業療法を一般の人々に解ってもらう一番の手段は、現場の作業療法士一人一人が素晴らしい仕事を行うことだと思います。そしてその実践結果をこの「さいかい」で発信することによって会員はもとより多くの人に理解してもらえると考えます。

当会理事より

平成28年度当会体制が決定しました。定時総会議案書に事業計画が掲載されていますが、本誌では各局・各地区の担当理事に今年度の課題や抱負をコメントしていただいています。是非ご一読いただき、今年度の当会活動を把握する一助にしてください。

会長 沖 英一（和仁会病院）

昨年度のふり返りと今年度の方針

平成27年度は、「地域包括ケア対策部」を事業局内に新設し、地域リハビリテーション活動支援事業等（介護予防・地域ケア会議・認知症初期集中支援など）に対応する準備を行った。「地域包括ケアに資する地域リハビリテーション専門職認定研修会」を理学療法療法士会・言語聴覚士会とともに企画・開催し多くの会員に参加していただいた。この研修会は、H28年度・H29年度の3か年の開催予定である。ただし、研修会受講に当たっては、受講資格（現職者共通研修終了、MTDLP基礎研修終了など）を満たしておく必要がある。平成28年度より現職者共通研修は、会員が受講しやすいように開催場所と開催回数の見直しを行い1日4コース、年間4日間開催することとする。（4年前より離島では、全てのコースを実施済みであり今年度の開催は、予定していない。）平成29年4月より各市町において実施される「地域ケア会議」「認知症初期集中支援」「介護予防（総合事業）」の基礎知識を学ぶ研修会を企画開催していく予定である。医療・介護制度の大きな転換にむけて会員の力が問われることになるが、生活行為向上マネージメント（MTDLP）の考え方をしっかりと身に付けていれば様々な場面での対応に困ることは少ないと考える。今後もMTDLPの研修会・事例検討会を通して会員の資質向上に努めていく。

今年は、日本作業療法士協会創立50周年の年である。広く県民の皆さんに作業療法を認識してもらうために一般の方を対象とした記念行事を県内3か所（佐世保・大村・長崎）にて実施予定であるため、多くの会員の方々の協力をお願いしたい。

最後に、一般社団法人長崎県作業療法士会の会員数が1000名を超え大所帯となり、事務局をはじめ各部局での業務量が増加してきている。会員の質の担保のためには、会員管理業務（会費納入状況・研修会案内・会議開催・多団体からの講師派遣調整など）の効率化および事務所設置の検討を行っていく。

事務局担当 田中 浩二

（長崎大学医歯薬総合研究科）

事務局を担当しています。長崎大学の田中です。事業局地域包括ケア対策部地域ケア会議班担当理事、介護予防班担当理事も務めさせて頂いております。地域包括ケアシステムの構築にむけて、作業療法士が求められていることを感じながら、事務強業務をおこなっています。最近では行政や他団体と接する機会が増えてきたようになってきました。作業療法が社会の要望に応えられるようにと思っておりますので、会員の皆様のご協力をよろしくお願い致します。

副会長 前園 健之（紅葉病院）

今期もまた副会長に就任しました前園健之と申します。紅葉病院に勤務しています。精神科作業療法一筋ですが、認知症治療病棟にも関わっています。

さて士会での仕事とは言いますと、会長を支え補佐する事が一番ですが、それ以外にも「倫理担当窓口」もやっています。実質会員からの相談事例は皆無です。其々の施設で倫理委員会が設置されているからでしょう。相談案件が無い事は喜ばしい事です。

次に今一番重要な仕事は「生活行為向上マネージメント推進委員」です。OTの生き残りをかけたとても重要なツールです。OTそのものと言っても過言では無いでしょう。OTとして当たり前の知識・スキルを会員の方は身につけておいて欲しいです。今後も研修会も開催されますので、何度でも参加して良い研修会です。そして実践の場で活用して下さい。

学術局担当 中村 和也（長崎記念病院）

学術局を担当させていただいて3年目になります。昨年度までは学術雑誌の発刊、県学会の演題査読管理、研修会等補助金事業、九州作業療法士会長会の運営協力と大きく4つの事業を行って参りました。今年度はこれらに加えて、新たに「学術雑誌のオンライン検索システムへの登録」を進めているところです。登録先は「メディカルオンライン」で、長崎県作業療法士会が発刊した過去10巻分の掲載論文がインターネットを通じて簡便に閲覧出来るようになります。また、投稿論文が長崎県士会員のみなならず、今後はより多くのユーザーの目に触れる機会も増えていくことが期待されます。皆様からの論文投稿が増え、長崎県作業療法士会の「知の財産」が対象者支援に広く貢献することを願います。

長崎地区担当 福島 浩満

（長崎医療技術専門学校）

長崎県作業療法士会の理事を務めさせていただいて2期目となります。長崎地区は施設数、会員数が多く、もっと施設間の連絡や連携につながる働きかけをしたいと思っておりますが、なかなか上手くは…。今期も引き続き地区組織の検討を継続していき、そしてOT協会や県士会の動きなど、大切な情報や研修会の案内など、全ての地区会員の皆さまに連絡が行き届くよう、連絡手段の整備も進めていければと思っています。

また今年度の県学会は長崎地区が担当です。縁あって今回は私が学会長を務めます。長崎地区の皆さま、学会運営にもぜひご協力下さい。よろしくお願いします。

県央・県南地区担当 平川 樹（池田病院）

県央・県南地区担当の平川です。所属は島原にあります池田病院で勤務しています。

今回で4期目となりますが、皆様の協力を得ながら頑張っていきたいと思っています。また、今年度も積極的に、地域で啓蒙活動に参画していきたいと思っています。

若い会員の皆さんも、県士会活動等に参加していただき、力を合わせて県士会を盛り上げて行きましょう！困ったこと、分からないことは、地区担当を上手く活用していただければ嬉しいです。よろしくお願いします。

広報局担当 中山 浩介（菅整形外科病院）

広報活動とは本来、外部に発信していく活動です。したがって、今年度は重点課題として、ホームページやねりんピック長崎などの対外広報活動における広報活動の充実を考えています。長年、会員向け広報誌として役割を担ってきた「西海」は、一般向けの広報物としての役割も担うようモデルチェンジを検討しています。県士会活動や会員個々の活動が、広く県民の方に伝わり、作業療法を理解していただけるような取り組みを進めてまいります。皆様のご協力をよろしくお願いします。

県北担当 日南 雅裕（佐世保北病院）

New!

この度、県北理事を拝命しました、佐世保北病院の日南です。

精神科での臨床経験は16年目になりますが、約10年は沖縄の方で過ごしていました（沖縄三線はソウルミュージックです）。



昨年度、僭越ながら学会長を務めさせて頂いたことで県士会の様子が少しずつ見え、各領域の先生方との繋がりも徐々に出来てきました。まだまだ若輩者ですので分からないことばかりです。県士会、そして県北地区の作業療法士を取り巻く環境を円滑に、幅広く推進できるようお手伝いをさせて頂きたく思います。今後とも宜しくお願いいたします。

県央・県南地区担当

井戸 佳子（長崎リハビリテーション学院）

New!



皆様には日頃より授業や実習でお世話になり感謝しております。仕事では常に学生募集の現実に直面し職種の普及・啓発の必要を感じています。一方ICFの概念やわが国の医療・福祉の方向は作業療法士にとっては追い風、今は適切に作業療法を伝え、施すことだと思っています。微力ながら会活動の一助となれるよう頑張りたいと思います。

事業局担当、離島地区担当

New!

久和 成吾（長崎県対馬病院）

今年度より理事に就任いたしました長崎県対馬病院の久和です。離島地区は佐賀里前理事のご尽力により各島ごとで生涯教育基礎研修を開催したり、これもまた各島に支部長を置くなど基本的なレールは敷いて頂きました。私自身も、これまではどちらかというと県士会活動に対して何となく距離があると感じていたところでしたので非常に佐賀里前理事をはじめ県士会執行部の方々には感謝しております。

今回、理事を拝命いたしましたので皆様から与えられるだけでなく、離島モデル（特に地域づくりに関しては、都市部以外の地区とはシンクロする部分が多いと思います）を皆様に発信できるよう頑張っていきますのでよろしくお願い致します。



事業局担当、県央・県南地区担当

New!

川口 明史（あきやま病院）

はじめて買った音楽はチャゲ&飛鳥のカセットで、憧れのヒーローは清原選手でした。

私は平成19年にあきやま病院へ入職後、主に認知症医療を担当し、現在は医療技術・医療相談・地域医療の統括をしています。県士会活動では、諫早市認知症対策推進会議委員として市の地域包括ケア事業に関わってきました。



諫早市の地域包括ケアは昨年度より本格始動しており、作業療法士に対しては、地域・医療・介護福祉団体から協働を求められる機会が増えています。今回の任期2年を通して、様々な職域の作業療法士が連携して地域や他団体と協働できる体制作りに貢献したいと思います。よろしくお願いします。

お母さんOTへのエール

和仁会病院 田川 良枝

私が養成校を卒業して、今年の春で13年が経ちました。この間に通算約4年半の産休育休をいただき、現在は夫と4人の娘と暮らしながらOTとして働いています。今回、私がどんな思いで仕事と家庭を両立させているかを綴ってみたいと思います。

私は自営業を営む父と専業主婦の母の間に育ちました。家の中はいつも綺麗で、朝食にはご飯、味噌汁、おかずが並び、学校から帰ると母に迎えられ、17時に父が帰宅する頃に母が食事の支度を始め、18時には家族揃って食事が始まり、週末は家族で過ごし、風邪でも引けば母が傍に寄り添い看病してくれる…そんな家庭でした。

では、私の今の生活はというと、家の中はそこかしこ散らかっていて（強敵4姉妹が散らかしてくれます…と言いつつ、私の服があちこちにあってよく注意されます）、朝食はパンかおにぎりのみで果物でもあれば超豪華（いろいろ作っても食べる時間が長引いて洗い物が増える、何よりイライラが増えるだけなのでシンプルに）、小学生2人は私より一足も二足も早く帰宅（お手伝い、宿題、テレビ、ゲーム、ケンカのどれかをして待ってます）、私と保育園組は18時～19時、夫は19時過ぎに帰宅（夫はたまに私たちが寝静まってから帰宅すること）、夕食開始は19時～20時（お惣菜、外食に頼ることも）、家族全員が揃うチャンスの日曜日に私が仕事のこと（土曜日は夫が仕事のため、私も仕事となると小学生組が丸1日お留守番したり、4姉妹まとめて夫の実家へ預けたり）、子供の体調不良時は出来るだけお

休みをいただいて私が看ますが、長引くときは夫の実家に隔離する（私の実家は県外なので夫の両親が頼みの綱!）…という感じです。

家事、育児をきっちりこなす母の姿を見て育った私は、結婚当初、それが当たり前で自分もそうあるべきだと思っていました。ところが時間が経ち子供が増えるにつれ、理想と現実のギャップは広がる一方。思うようにいかず、悔しくて、情けなくて、悲しくて、申し訳なくて、腹立たしくて、子供たちはこれで幸せなのかと疑問に思うことがあります。

しかし、そういった思いに支配されて過ごすのは楽しくないので、自分の思いを受け入れた上で「割り切る」という形で自分の中でバランスを取っています。「4人もいて大変でしょう？」とよく言われますが、私は決まって「これが私の“フツウ”だと思ってるのでそうでもないですよ!」と答えています。

家事や育児にとっても積極的な夫と、共働きだったこともあり良き理解者であり協力者である夫の両親、子育てをしながら働くことに理解の深い上司や仲間に支えられ、私は「ママOT」として頑張っています。それぞれ置かれた環境は違えど、この記事を読んで下さっている「ママOT」が今ある“フツウ”を楽しみながら、子供たちと笑顔で過ごせることを願っています。みなさん、頑張りすぎず頑張りましょうね!



おみごと! キャラ弁!
さすが、ママさんOTです。(^^)



とても仲が良さそうですね。
田川OTのようにがんばり過ぎず、楽しみながら
育児と仕事の両立をしたいと思います。(編者)

田川療養所デイケア紹介

田川療養所 吉野賢一

田川療養所のデイケアは平成10年10月に病院併設型の精神科大規模デイケアとして開始しました。デイケア開始当初は、統合失調症中心のリハビリテーションが主流でしたが、ここ数年は気分障害、適応障害の方の割合が増えてきています。対象者のニーズに対応していくために、デイケアのプログラムも多様化し、現在では、疾患や目的別のグループ活動を実施しています。今回、当院デイケアで実施している内容を皆様に少しでも伝えることができたかと思ひ、原稿を書くことにしました。

田川療養所ではデイケアとショートケアを、週6回（月曜日から土曜日まで）、デイナイトケアを週2回（火曜日、木曜日）実施しており、利用者の生活スタイルや目的によって参加頻度は違います。

グループとして、

- ①統合失調症の方中心の就労支援グループ（ワークトレーニング）
- ②休職中の気分障害、適応障害の方中心の復職支援グループ（リワーク）
- ③女性だけで安心して活動できるグループ（女性デイケア）
- ④集団活動中心のグループ（チーム活動）
- ⑤緊張の強い方中心のグループ（小集団活動）
- ⑥入院されている方との合同活動（センターOT）

を実施しています。

ここ数年は就労に移行する方が増加し、ハローワークや、就労移行・継続支援事業所、相談支援事業所、障害者職業センターのスタッフとの連携の機会が増えてきており、就労におけるネットワークづくりの重要性を強く感じています。

活動内容としては、

職業訓練（ピッキング、ボールペン組み立て）

生活習慣改善プログラム（食事・運動習慣の学習プログラム）

認知行動療法、心理教育

運動療法（ウォーキング、フットサル、ソフトバレー、ソフトテニス、体操、フィットネス等）

創作活動（革細工、編み物、折り紙、絵画、ビーズ、園芸、料理等）

学習活動（ペン習字、脳トレ、読書、パズル、パソコン、英会話、電卓、読書等）

ボランティア活動（ペットボトルキャップ寄贈、原爆資料館への千羽鶴寄贈、地域清掃等）

娯楽活動（UNO、将棋、五目並べ、オセロ、カラオケ等）

イベント活動（スポーツ大会、バザー、花見等）

地域の社会資源見学

健康教室、体力測定、家族教室

以上のようなものを実施しています。

又、毎月ミーティングを行い、利用者の方の主体的な意見を尊重し、活動プログラムに反映するようにしています。

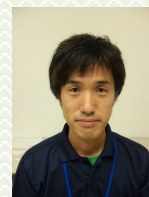
最後に、デイケアのスタッフについて少し記載したいと思います。精神科デイケアは他職種の構成で運営しており、医師、作業療法士、看護師、精神保健福祉士、臨床心理士等が関わっています。利用者の方の地域生活をサポートしていくにあたり、他職種で行うことで職種の専門性を出し合い、利用者の方に対してのリハビリテーションが成り立っていると思います。日々、他スタッフに支えられながら仕事を継続できているんだと最近特に思います。今年度の診療報酬改定の精神科デイケア関連で、1年以上継続して頻回に実施する場合の算定要件の見直しがあり、今後も、より質の高いリハビリテーションが求められると思われます。その時に、対応できるように自己研鑽に励みたいと思います。

P.S：現在、デイケアで好評な革細工の作品を掲載したいと思います。革細工は作業能力を評価する場合や、家族・友人へのプレゼント、バザー作品としても有効ですが、近年、材料費の値上がりで、実施する機会が減っていました。何とかいい方法がないか考え、刻印の練習後の革や端の方の革を使用したリサイクルの小物を作ったところブームとなったので、ご紹介します。上段の作品は左からブーツと本とバックです。下段の作品は左から帽子、カメラ、星座のミニバックです。ブーツと本とバックと帽子はダイソーに型紙はありますよ。



第23回長崎県作業療法学会を終えて

第23回長崎県作業療法学会 学会長
日南 雅裕 (佐世保北病院)



去る平成28年3月5日、6日、長崎国際大学において、「作業のちから」～作業は元気のみなもとです。～のテーマのもと、第23回長崎県作業療法学会が開催されました。

おかげさまで、269名（2日間で延べ約400名）の皆様が足を運んでくださり、盛会裏に終えることができました。ご多忙にもかかわらず、ご参加頂きまして誠にありがとうございました。

今年は日本作業療法協会が設立して50年という節目の年にあたります。介護報酬では生活行為向上リハビリテーション加算が新たに加わり、地域ケア会議への作業療法士の参画も期待されています。

世間の注目が作業療法士に向けられ、追い風がふく中、作業療法は何をすべきなのか、何ができるのかと思った時、今回のメインテーマである、作業のちからを改めて考えることが重要であると思いました。作業にはちからがあります。そして、対象者の数だけ作業の可能性は千差万別です。

そんな思いを胸に実行委員会を発足し一年かけて準備いたしました。

さて、特別講演（一般公開講座）では「作業に焦点をあてた臨床実践」というテーマで茅ヶ崎新北陵病院の認定作業療法士、藤本一博先生に貴重なご講演を頂きました。作業を基づく実践（occupation based practice）とはどういったことなのかを分かり易く、面白く教えて下さいました。

2日目はテーマを「認知症の作業療法について」と題し、シンポジウムを行いました。認知症を持つ人の増加は深刻な社会問題となっています。認知症を取り巻く環境でも、我々作業療法士の活躍はますます期待が高まるはずです。そこで今回は教育、精神、老人、身障の各領域から4名のシンポジストをお招きしました。フロアーからの質疑も多く活発な討議となりました。

特別企画は「こっちのほうも見てくれんぎや、平戸・松浦地区の地域で作業ができる」として、地域の各サロンを現地取材し、ポスターにして紹介しました。取材をして分かったことは、地域では作業療法という言葉や仕事内容を知らない方が殆ど。しかし、取材を通して作業療法の存在を知り、「ぜひ、うち（サロン）でも何か体操を教えてほしい」との要望があり、作業療法士が参加して各サロンとの繋がりができたと聞いております。

その他にも、精神領域では比較的あたらしい理論であるvdtMoCAの紹介や、離島指定発表もありました。

演題発表においても、締切期間内の応募は1件だけという状況に最初は目を疑いましたが、募集延期後は多くの演題が集まり、発表会場でもたくさんの公聴者が見られました。発表をしてくださった先生方ありがとうございました。



レセプションの盛り上がりは過去最大級でした。

「作業のちから」
～作業は元気のみなもとです。～



演題発表は活発な質疑応答で盛り上がりしました。



藤本一博先生の講演 occupation based practiceとは！

最後に、学会長の立場にあると周りから有り難いことに「学会の準備大変でしょう？ご苦労様です」と声をかけられることが多かったのですが、「それほど大変ではないです(^_^)v」とお答えしました。私の仕事量が少なかった（？）ところもありますが、なにより実行委員ひとりひとりの、お力沿えと支え、対応力があったからだと思います。なのでどちらかということ、大変というよりも楽しく学会準備を進められました。毎月の会議も回数を重ねることに笑いが増えていったように感じられます。学会運営という貴重な体験と、支えて下さった実行委員にただただ感謝です。

今学会に参加して頂いた実人数は269名と、目標の300名には届きませんでした。しかし、会員の皆様、一般市民やOT学生、他職種、県外からのOTの参加がありました。本当に嬉しい限りです。

また、レセプションにも83名の皆様にご参加頂き、歌や踊りに大盛況な楽しい佐世保の夜となりました。

本当に県北地区だけではなく、各県域の皆様のご協力があって盛会と言える形で学会およびレセプションを無事に終えることができました。すべての方々に心より御礼を申し上げます。ありがとうございました。次の学会は長崎市での開催になります。是非そちらにも足を運んで下さると幸いです。



広報局員おすすめの県内各地で定期的開催されてる勉強会・研修会の紹介ページです。

☆はSIG研修会（生涯教育制度 基礎ポイント対象学研修会）です。

発達系の勉強会

☆長崎発達障害領域作業療法勉強会

窓口：岩永 竜一郎（長崎大学） 2か月に1回
Tel: 095-819-7993 メール：
iwanagar@nagasaki-u.ac.jp

☆Nagasaki Child P.O.S.T

窓口：宮本 久志 年度初めにメンバー
（みさかえの園 むつみの家）登録し、メンバー固
定（年10回）
メール：nagasicpost@gmail.com
平成14年に発足した長崎県内の療育に
関わるもしくは興味のあるPT、OT、
ST有志の会です。

身障系OTの勉強会

☆佐世保身障系OT勉強会（させぼっと）

窓口：内野 保則（千住病院） 2か月に1回。
Tel: 0956-24-1010 メール：rehab- 日程・場所などは
senju@1010hosp.or.jp F ネットで案内。
させぼっと は県北作業療法士の勉強会
であると同時に、施設間の情報共有、
連携を取り合うことも目的としています。
皆さまの参加をお待ちしています。

☆長崎身体障害系勉強会（ふもとの会）

窓口：田中 浩二（長崎大学） 月1回。
Tel: 095-819-7900 メール： F ネットで案内し
kojicbr@nagasaki-u.ac.jp ています。
FBページ「ふもとの会」で情報配信し
ています。

老年期を中心としたOTの勉強会

☆長崎老年期作業療法研究会

窓口：田中 浩二（長崎大学） 3か月に1回。
Tel: 095-819-7996 日程・場所な
どはF ネット
メール：kojicbr@nagasaki-u.ac.jp で案内。
高齢者の作業療法全般（身体面、認知面、
環境調整など）を
考えていきたいと思っています。

ハンドセラピの勉強会

☆長崎ハンドセラピ研究会

窓口：坂本竜彰 2か月に1回。
（愛野記念病院 手外科センター） 日程・場所な
どはF ネット
TEL: 0957-36-0015 で案内。
FAX: 0957-36-1027
E-mail: aino-otd@ainomhp.jp
長崎や愛野を中心に各地で開催しています。
お気軽にお越し下さい。
今年SIG認定を受けました。

精神系OTの勉強会

☆長崎精神科系作業療法勉強会（ちゃんぽん）

窓口：鎌田 秀一（日見中央病院） 月1回
Tel: 095-838-2760 メール：himi- （通常、第二月曜日に開催）
life-support@alpha.ocn.ne.jp
精神分野に限らず、興味関心がある方
も歓迎します。気軽にご連絡ください。

☆島原県央地区精神科作業療法勉強会（中ちゃんぽん）

窓口：延 祐樹（あきやま病院） 現在、休止中。
Tel: 0957-22-2370 メール： 頃合いをみて再開予
akiyama_ot@yahoo.co.jp 定。

☆長崎県北地区精神科作業療法勉強会（北ちゃんぽん）

窓口：日南（佐世保北病院） 3か月に1回。
0956-47-2332 日程・場所などはF
メール：kitachampon@gmail.com ネットで案内。
他の圏域からのご参加も大歓迎です！

高次脳機能障害についての勉強会

☆長崎高次脳研究会

窓口：山田 麻和（長崎北病院） 2か月に1回
Tel: 095-886-8700
フェイスブックページ「長崎高次脳機能研究
会」にて情報配信しています。多職種で高次
脳機能障害への学びを深めていきましょう。

シーティングから福祉機器まで

長崎シーティング研究会

連絡先: E-Mail nagasaki.seating@gmail.com 年4回。
（代表 山田麻和） F ネットで案
フェイスブックページ「長崎シーティング研 内しています。
究会」にて情報配信しています。

皿うどんは「精神科作業療法研究グループ」です。

☆皿うどん

不定期の開催になりますので、その際はFネット Fネットな
などでご案内します。（真珠園養護所 江口） どで案内

☆中皿うどん

日々の臨床での作業療法の効果、エビデンス 月1回
を検証・研究するために集まっています。現 （金曜日）
在、実施している作業療法に意味があるのか F ネットなど
確認したい人は是非ご一報ください。 で案内
小鳥諫早病院 杉村
(iitotok2001@kotorii.or.jp)

地区ごとの勉強会

多分野・多職種・地域連携、幅広く勉強しています。

☆長崎県県南地区勉強会（バーモス・ア・島原）

窓口：中嶋 康貴（池田病院）
Tel:0957-62-3043
nakashima.y@ikeda-hp.or.jp
バーモス・ア・島原は、スペイン語で「島原に行こうよ・おいでよ」などの意味です。皆さんお気軽にお越しください！！

2か月に1回
（奇数月に開催）

MoCAであらたな視点を！

☆長崎MoCA勉強会

窓口：佐久間聡美（長崎医療技術専門学校）
Tel:095-827-8868
開催場所：県立精神医療センター、日見中央病院など メール：ruck3pooh3@yahoo.co.jp
VDT MoCAは対象者にどのような活動・環境・関わり方が必要など具体的な助けを得られる理論です。理論を知らない方も気軽に参加下さい。

月1回
Fネットなどで案内します。

未来について熱く語ります！

長崎リハビリテーション未来創造ミーティング

長崎のPT・OT・STが集まり、演者が描く長崎県のリハビリテーション未来像について話題を提供する会です。F Bページなどで情報配信しています。

リハビリテーション専門職として重要な研修会です。

長崎災害リハビリテーション推進研修会

長崎災害リハビリテーション推進協議会（長崎J R A T）主催の研修会です。

神経心理学的検査研修会

リハビリ関連団体主催の研修会です。平成25年より5回開催されてきています。高次脳機能障害に対する実践的なスキルアップを目指します。

長崎県三士会合同訪問リハビリテーション研修会

年一回実務者研修会やスタッフ養成講座を開催。
フェイスブックページや県士会HPで情報配信しています。今年度は平成28年10月29日（土）30日（日）開催予定。

地域リハビリテーション専門職認定研修会

平成27年から29年の3年間の予定で開催予定。地域ケア会議、介護予防事業に関わる方やこれから関わる方

長崎県リハビリテーション支援センター主催の研修会

県・圏域で多職種による地域リハビリテーション支援事業を展開。リハビリテーション分野に限らず医療職や一般向け研修会や講演会が多く開催されています。詳しくは、<http://rehab-nagasaki.com/about.html>

高度リハビリテーション専門職の道へ

高度リハビリテーション専門職の養成 長崎地域包括ケアシステムを活用したプログラム

地域包括ケア人材養成と臨床指導者養成教育の2つのコースで、一般参加が可能なフォーラムを年数回開催しています。コース受講は年1回の募集です。
<http://www.am.nagasaki-u.ac.jp/ptotgp/>

☆大村・東彼杵地区勉強会（ゆでピー）

窓口：中山 真一（大村市民病院）
Tel：0957-52-2161 メール：shinichin@jadecom.jp
※窓口は年度毎に変更しております。分野、領域を越えての学び場としております。近隣地区も含めて、ご参加をお待ちしております。

月1回
日程・場所などはFネット内で案内。

☆対馬リハビリテーション研究会

窓口：久和成吾
Tel：0920-54-7111
s.kuwa_tih@nagasaki-hosp-agency.or.jp
対馬のリハ専門職（OT・ST・PT）による症例検討をはじめ外部講師を招いての勉強会です。

年4回

同門会の勉強会、卒業生でない方もOK！

長崎医療技術専門学校同門会勉強会

窓口：福島浩満（長崎医療技術専門学校）
卒業生以外の方もぜひお越し下さい。
※講師や内容の都合上、開催日を変更することがあります。

4～9月 1回
（第3水曜）/
月
Fネットなどで案内

長崎大学作業療法同門会研修会

一般参加が可能な研修会を開催しています。卒業生以外の方もぜひお越し下さい。

年1回11月頃
Fネットなどで案内

意思伝達装置などIT技術による支援について

長崎コミュニケーションエイド研究会
<http://commuken.net/xxoops/>

コミュニケーションエイドについて多職種と連携しながら学ぶことができます。年一回開催されるコミケンフォーラムはおすすめです。

その他、Fネットなどで案内されている研修会です。

島原リハネット

長崎上田法勉強会

長崎認知神経リハビリテーション研究会

長崎S J F 研修会

長崎口のリハビリテーション研究会

長崎呼吸リハビリテーションネットワーク

長崎認知神経リハビリテーション研究会

長崎地域リハビリテーション塾

長崎県ボバースの勉強会

長崎手外科研究会の案内

長崎物理医学研究会

長崎認知神経リハビリテーション研究会

長崎県精神科リハビリテーション研究会

しおさいセミナー（今年度は10/22と11/26に開催）



第24回長崎県作業療法学会

2017.3.18 SAT-3.19 SUN

テーマ：『crisis ～今自分にできること～』

会員1,000円 非会員7,000円 学生無料 一般公開はどなたでも無料

学会長あいさつ

今、リハビリテーション業界は、その効果と必要性とを明確に示さなければならない重要な時期にきています。今回、学会のテーマを「crisis ～今自分にできること～」としました。crisisは「危機」という意味になりますが、そこには、全てが悪い状態ではなく、良い方向に向かう出発点という意味も含まれています。つまり、crisisにはピンチとチャンスという二つの意味が含まれるのです。作業療法士にできることが試されいる一方で、社会的に発揮する場も与えられてきています。そんな時期である今、作業療法士一人一人の意識改革と行動が求められています。サブテーマを「今自分にできること」と置き、本学会にて現代社会が求めるものは何かを改めて学び、結果を出すための方法論の認識を深め、そして何より会員の皆様が、作業療法を取り巻く情勢への意識と共通認識を高める機会としたいと考えております。

また、一般公開講演は日本作業療法士協会50周年記念事業として開催されます。そして今回は今までにない、多くのチャレンジ企画を準備しています。ぜひ積極的に多くの皆様のご参加をお待ち申し上げます。

第24回長崎県作業療法学会 学会長 福島 浩満

県学会会場（長崎県立大学シーボルト校）



長崎県西彼杵郡長与町まなびの1丁目1-1

自家用車

長崎バイパス 川平I.Cから約10分。
川平有料道路 女の都ランプから約2分。

JR

長崎駅－長与駅（35分）下車後、徒歩25分。

バス

長崎バス・県営バス（長崎駅から25分）。

<下車バス停>

県立大学シーボルト校、商業入口、女の都小学校下

開催要項

- 会 期 平成29年3月18日(土)・19日(日)
- 会 場 長崎県立大学シーボルト校（長崎県西彼杵郡長与町まなびの1丁目1-1）
- テーマ crisis ～今自分にできること～
- 日 程

1日目	会場1	会場2	会場3	会場4
9:15	OT受付			
9:45	開会式			
10:00	活動紹介 ロリーポップ・ ネットワークと その活動			
10:10		口述発表	口述発表	
11:10		口述発表	口述発表	
11:40				
12:10	昼休み			支援施設カフェ A
13:10	テーマ演題発表1	口述発表	口述発表	
14:20	特別企画 活動と参加 A	特別企画 活動と参加 B		特別企画 活動と参加 E
15:30	休憩			
15:50	特別企画 活動と参加 C	特別企画 活動と参加 D		
17:00	1日目終了			
18:30	レセプション			

2日目	会場1	会場2	会場3	食堂
9:30		学生参加型 事例検討会 OTの感性を磨く、 育む、そして…		
10:00	テーマ演題発表2		離島指定発表	支援施設カフェ B
11:10	地域包括ケアシステム講座 いまさら聞けない地域包 括ケアシステム		口述発表	
12:10				
12:40	昼休み 一般受付13:00～			
13:40	一般公開講座 crisis -今自分にできること- 村井千賀氏			
15:50	閉会式			
16:00	2日目終了			

活動紹介

3月18日 10:30～12:00

ロリーポップ・ネットワークとその活動

森内 浩 氏（ロリーポップ・ネットワーク代表）

特別企画講座

3月18日 14:30～16:30

活動と参加ー異業種から学ぶ、OTに深みをー

- | | | | |
|---|-----------|---------|---|
| A | ひとと住まい | 飛永高秀 氏 | （長崎純心大学 准教授） |
| B | ひととメイク | 野瀬直子 氏 | （株）資生堂 美容統括部 |
| C | ひととファッション | 徳光奈保子 氏 | 〔 パーソナルスタイリスト、作業療法士
大阪府寝屋川市教育委員会 教育指] |
| D | ひとと楽器 | 導課 | |
| E | ひとと調理 | 調整中 | |
| | | 調整中 | |

学生参加型事例検討会

3月19日 9:30～11:00

OTの感性を磨く、育む、そして…

長崎大学保健学科、長崎医療技術専門学校、長崎リハビリテーション学院のOT学科学生 他

地域包括ケアシステム講座 3月19日 11:10～12:40

いまさら聞けない地域包括ケアシステム

ー みんなに知ってほしいのはコレだ！ ー

沖 英一 氏 （和仁会病院、長崎県作業療法士会会長）
淡野義長 氏 （長崎リハビリテーション病院）

特別講演 一般公開講座 3月19日 13:40～15:40

crisis ～今自分にできること～（仮題）

村井千賀 氏 〔 石川県立高松病院 作業療法士
前厚生労働省 老健局 老人保健課 課長補佐 〕

レセプションのご案内



レセプション会場

ベストウエスタンプレミアホテル長崎

開 始：18:30～21:00

参加費：6000円（予定）

詳細は随時、長崎県作業療法士会ホームページに掲載していきます。

事前申込みはホームページより行う予定です。

皆様の多数のご参加をお待ちしております。

一般演題募集要項 (応募受付期間：9月15日～10月15日)

1. 応募資格

- 1)長崎県作業療法士会会員は応募資格があります。
ただし、2016年度県士会会費未納者は応募資格がありません。応募前の会費納入が必須です。
- 2)他職種の方は共同演者になることができます。

2. 応募受付期間

2016年9月15日～2016年10月15日21時までです。
応募期間および締切り時間の厳守をお願いします。

3. 応募内容

一般演題のみの募集となります。
なお、一般演題発表を事例読替希望の方は後日、各自で申請して下さい。
「研究と報告」「実践報告」「事例報告」など「その

1. 2」
と連動せず、1演題で完結して下さい。
テーマ演題：生活行為向上マネジメント (MTDLP)

4. 発表形式

「口述発表」のみです。

5. 投稿演題の使用権

演題の二次使用権・許諾権は長崎県作業療法士会に帰属します。

6. 倫理的事項

対象者の同意、倫理的な配慮、著作権等への配慮について、倫理的事項を遵守し、本文中に対象者の同意についての記載が必須です。また、研究や事例報告の作成過程にて、個人の尊厳、人権の尊重等の倫理的配慮を十分行ってください。なお、他の著作物を引用する際は、本文中に出典の著者と発行年数（フルネーム、西暦）を明記してください。

7. 抄録原稿作成上の注意

- 1)制限文字数は800文字となります。
フォントはMS明朝、大きさは演題名14ポイント、氏名・施設名・本文は12ポイントで統一ください。
尚、図表や画像の掲載はできません。
- 2)発表者を筆頭著者とし所属が複数ある場合は氏名の後ろに所属番号を付けてください。

8. 査読と採否

演題採否は査読委員の審査意見を元に委員会で決定後、投稿者に通知し、不採択時は理由を明記します。

9. 応募方法

- 1)原稿はMailで受け付けます。件名に【第24回長崎県OT学会演題申し込み】、本文に所属・氏名・電話番号を明記し、抄録原稿と演題登録申込書を添付し下記アドレスへ送信ください。
- 2)抄録フォーマットと演題登録申込書は県士会ホームページよりダウンロードして下さい。
- 3)演題採択担当より登録完了のお知らせを致します。必ずインターネットアドレスにて申し込み下さい。
- 4)抄録修正は応募受付期間中に限り受け付けます。件名に【第24回長崎県OT学会演題修正依頼】、本文に所属・氏名・電話連絡先を明記し、抄録原稿を添付し下記アドレスまで送信ください。

10. 発表時間

一律、発表時間7分以内、質疑応答時間3分です。

11. スライド作成要領

学会誌及び県士会ホームページ上に、作成上の留意点を掲載致します。ご確認ください。

募集要項に関する問い合わせ・応募先

E-mail：ken-gakkai@nagasaki-ot.com

演題採択委員会（担当：川野志起）

学会誌は郵送されません。ダウンロードをお願いします。

第24回長崎県作業療法学会の学会誌は、長崎県作業療法士会ホームページより閲覧・ダウンロードしていただくこととなりました。

県士会ホームページの[長崎県作業療法学会ページ](http://www.nagasaki-ot.com/gakkai/)

<http://www.nagasaki-ot.com/gakkai/>

にアクセスし、PDFファイルをダウンロードして下さい。

会員の皆様には何卒、ご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。

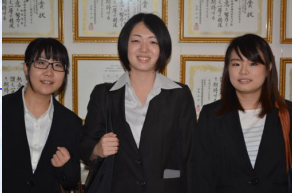
学会全般に関するお問い合わせ先

E-mail：info-gakkai@nagasaki-ot.com

第24回長崎県作業療法学会実行委員会

平成28年度新入会員紹介

*平成28年度新人オリエンテーションに出席いただいた方を紹介しています。

【氏名】 ①所属 ②出身校	【徳成慧吾】 ①長崎リハビリテーション病院 ②熊本駅前看護リハビリテーション学院	【下村太郎】 ①日浦病院 ②長崎大学	【澤邊舞】 ①耀光リハビリテーション病院 ②長崎リハビリテーション学院	【中村志桜里】 ①池田病院 ②西九州大学
		【徳永幸恵】 ①池田病院 ②北九州リハビリテーション学院	【串間慎吾】 ①和仁会病院 ②長崎リハビリテーション学院	【井手香菜子】 ①佐世保中央病院 ②熊本保健科学大学
				【別頭茉友】 ①耀光リハビリテーション病院 ②長崎リハビリテーション学院
【山崎真穂】 ①南野病院 ②長崎医療技術専門学校	【沖千紘】 ①長崎リハビリテーション病院 ②東名古屋病院付属リハビリテーション学院			【山口湖希】 ①耀光リハビリテーション病院 ②長崎リハビリテーション学院
【澤瀬穂】 ①姉川病院 ②長崎リハビリテーション学院	【木村光亮】 ①長崎リハビリテーション病院 ②関西総合リハビリテーション専門学校	【石山苑香】 ①耀光リハビリテーション病院 ②長崎リハビリテーション学院	【吉村梓】 ①杠葉病院 ②長崎医療技術専門学校	

患者様と笑顔で接し、QOL向上を目指した作業療法を提供していきたいです。
新入会者を代表して 林田万由さん

		【三岳直也】 ①鈴木病院 ②長崎リハビリテーション学院		
【大町美咲】 ①うぐいすの丘 ②長崎リハビリテーション学院	【山田美里】 ①長崎リハビリテーション病院 ②熊本保健科学大学	【宮村喬】 ①市立大村市民病院 ②長崎リハビリテーション学院		
【吉永海歌】 ①南野病院 ②長崎医療技術専門学校	【服部明日香】 ①佐世保愛患病院 ②長崎医療技術専門学校	【山崎芽依】 ①日浦病院 ②長崎医療技術専門学校	【溝田晴菜】 ①道の尾病院 ②長崎大学	
【山田菜里】 ①俵町浜野病院 ②長崎リハビリテーション学院	【一宮志穂】 ①日浦病院 ②長崎医療技術専門学校	【野口歩愛】 ①杠葉病院 ②長崎医療技術専門学校	【荒木泰斗】 ①哲翁病院 ②長崎医療技術専門学校	
【宮腰昇】 ①掖済会病院 ②長崎医療技術専門学校	【三浦修平】 ①長崎リハビリテーション病院 ②帝京大学	【松本千詠】 ①佐世保記念病院 ②医療福祉専門学校緑生館		【植木百合子】 ①掖済会病院 ②長崎医療技術専門学校
【峯晴香】 ①あきやま病院 ②長崎医療技術専門学校	【橋口裕樹】 ①三和中央病院 ②長崎医療技術専門学校	入会おめでとうございます。 県士会をさらに盛り上げていきましょう！		

編集後記

今号の「西海」はいかがだったでしょうか。会員向けと一般向けの同時発行という新しい試みですが、限られた予算や時間の中で、時代の要請にあったものを作成する難しさを感じながらの編集でした。いろいろ悩んでいる最中に、過去発行された「西海」を一読しました。それぞれの「西海」に関わった方の思いを感じながら読むことができました。いくつかの過去の記事を取りあげていますが、今号では1990年発行分の表題を使用させて頂きました。重厚な文字に、当時表題を書いた方や編集された方の思いが詰まっているように感じます。今後も先代たちのチャレンジ精神を引き継ぎながら、編集作業に取り組んでいきたいと思っています。

広報局 中山 浩介（菅整形外科病院）



県士会野球チーム ホームランカップ一戦突破！
平成28年7月16日 香焼グラウンドにおいて